



## 男女平等は「また後退」・・・でいいの？

世界経済フォーラムが発表した2019年の男女格差（ジェンダーギャップ）報告書で、日本の順位は対象153カ国中121位と過去最低でした。主要7カ国では最下位です。報告書では、経済、教育、健康、政治の4分野の男女格差を指数化しています。国の発展レベルを評価しているのではなく、あくまでも男女の「差」だけに着目しています。日本は特に経済と政治の分野での格差が大きいという評価になりました。たとえば、経済に特化して見ると・・・

- 管理職ポジションに就いている男女の人数の差 131位
- 専門職や技術職の数の男女差 110位
- 収入における男女格差 108位

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



5 GENDER  
EQUALITY



という評価です。男女共同参画社会の推進については、日本も基本計画を策定して様々取り組んでいます。しかし、諸外国は日本以上に、多様性を尊重し、女性にチャンスを与えようとしくみを整えて実践しており、そしてそのスピードが速いということでしょうか。国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」SDGs（持続可能な開発目標）のゴール5はジェンダー平等です。私たちはこの現状を真摯に受け止め、互いを尊重し格差のない社会を構築していかなければなりませんよね。

### 身近なところに男女共同参画・・・ミニ講座 その6

#### 働き方改革

残業を減らすだけが、改革じゃない。  
性別を問わず、誰もが活躍できる職場をつくる。  
これだって「男女共同参画」。



テーマ  
職場

あ、ここにも!

かつて日本では、男が仕事、女が家庭という性別による役割分業が成り立っていました。しかし、少子高齢化の進展により、将来推計人口は減少が見込まれ、特に働く世代の減少が著しくなっています。

このような中、様々な働き手が活躍できるように、それぞれのライフステージやライフスタイルに合った柔軟な働き方ができる環境を整備する必要があります。働き手一人ひとりの生産性を高める取組なども「働き方改革」の一つです。

パネル（全8枚）を貸し出しています。  
皆さんが集まる場所に展示して、男女共同参画について一緒に考えてみませんか？ ※詳しくは、共同参画社会推進課にお問い合わせください。

